

行事報告書(研修)

報告者: 仲谷貞夫

行事名	自然観察会(箕面の森・植物観察)	
実施日時	2023年 11月 9日(木曜日) 10:00時～15:00時 天候:晴	
場所	箕面の森	
テーマ	北摂山系南端に位置する「箕面の森」の秋の木々の生き様を観察する	
講師	全体リーダー大原さん、樋口和久さん	
参加人員	24名	
研修内容	<p>1) 観察コース 箕面駅～聖天橋～聖天展望台～(折り返し)～聖天橋～龍安寺(昼食)～(川左岸)～姫岩～(川右岸)～修行古場～龍安寺～箕面駅</p> <p>2) 観察概要          &lt;箕面駅前～聖天橋&gt;          平日なのに多い人や車の往来を避けながら、アントシアニンで葉が赤く色づくレッドロビン、葉裏の白いカラムシ、そしてアカメガシワが順次開葉する樹に特徴の樹の下部から順次黄色く色づく状態を確認しました。イロハモミジとオオモミジの葉の形状差を見届けながら本格紅葉はもう少し先と実感。イロハモミジの紅葉はイマイチで「8度以下にならないと進まない」の説明あり、また夏に二次展葉した枝は早めに紅葉するとも聞かされ紅葉進捗のバラツキも理解しました。路上には種子が数個付いている短枝ごと種子散布するケヤキの枝も確認。一の橋の近くには果実はありませんが細長く鋭い刺が目立つアリドオンも見つけました。</p> <p>&lt;聖天橋～聖天展望台&gt;          聖天橋からの上り坂の法面にはコウヤボウキの花がまさに満開、卵型葉を持つ一年枝と細長い葉の二年枝の区別が判りました。この登山道ではネジキの紅葉、モチツツジの時忘れ開花に出会い、花柄の長いソヨゴの果実は「1つの花柄に1個の果実」は間違いで元は2個(又は3個)付き果柄にその脱落の痕跡があるよと教わった。また、アベマキとクヌギは葉裏の白さだけでなく殻斗の深さにも差異がありアベマキの方が深いと知りました。かなり息切れしながら登った展望台からは北側の谷斜面に、日陰に強い陰樹であるツブラジイが長い年月を経て、この地に落ち着き、極相林を形成している様子が見渡せました。カゴノキの幹、マルバアオダモの灰色の冬芽側芽も観察。その後、龍安寺に下り、弁天堂で昼食。境内ではオガタマノキの赤い果実を採取しました。</p> <p>&lt;箕面川左岸、姫岩付近&gt;          チャノキの果実を岩にこすって「猿の顔」を見、ケンポナシの特徴ある葉脈を確認、カゴノキの若木の肌はきれいとなりました。</p> <p>&lt;箕面川右岸、箕面駅&gt;          アカシデの筋肉隆々の幹を見、修行古場対岸にはタマミズキが、まだ葉が沢山残っているものの赤い果実が見事な鈴生り状態でした。</p> <p>益々人が多くなった滝道を下り、今回は箕面駅で解散。箕面は独特の植物分布が見られ、シダの種類も多く、何回来ても観察のネタが豊富な場所と再確認した観察となりました (記 仲谷)</p>	

